

平成20年11月5日

中部電力(株)浜岡原子力発電所5号機の原子炉手動停止について

原子力安全・保安院は、本日（11月5日）、中部電力(株)から、浜岡原子力発電所5号機（改良型沸騰水型：定格電気出力126万7千キロワット）における原子炉手動停止について、以下のとおり報告を受けました。

1. 中部電力(株)からの報告内容

定期検査中の調整運転中の浜岡原子力発電所5号機において、本日（11月5日）気体廃棄物処理系の希ガスホールドアップ塔の温度上昇が確認されたことから、原因調査のために16時15分に原子炉を手動停止しました。

なお、本事象による外部への放射性物質の影響はありません。

2. 原子力安全・保安院の対応

本件は、実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第19条の17に基づき報告を受けたものです。

なお、現地保安検査官が現場の状況確認を行っています。

今後、法令に基づき事業者が行う原因究明及び再発防止策について、確認していきます。

（INESによる暫定評価）

| 基準 1 | 基準 2 | 基準 3 | 評価レベル |
|------|------|------|-------|
| - | - | 0 - | 0 - |

（本発表資料のお問い合わせ先）

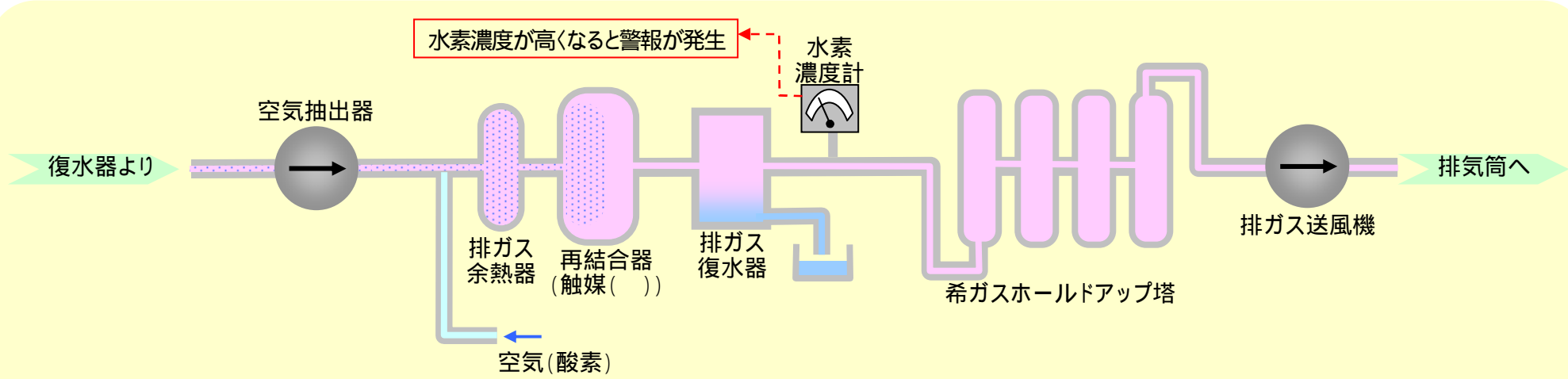
原子力安全・保安院 原子力事故故障対策室

担当者：森下、山口

電話：03 - 3501 - 1511（内線4911）

03 - 3501 - 1637（直通）

気体廃棄物処理系の概要



【気体廃棄物処理の流れ】

復水器の中には、タービンで仕事を終えた蒸気の外に、原子炉水の放射線分解によって発生した水素、酸素および僅かな希ガス(キセノン、クリプトン等)が含まれています。

水素、酸素、および僅かな希ガスは空気抽出器で、再結合器に送られます。

なお、再結合を促進させるため、空気(酸素)を系統内に送風するとともに、排ガスを再結合前に排ガス余熱器で加熱しています。

水素と酸素は、再結合器内の触媒()により結合され、水蒸気として排出されます。

再結合器から排出された水蒸気は、排ガス復水器で冷やされて水になり回収されます。

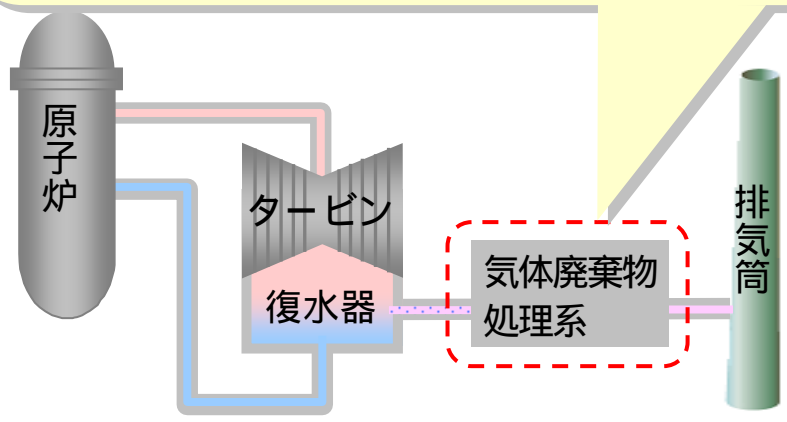
再結合後も、水素の濃度が高い場合は、警報が点灯します。

希ガスは希ガスホールドアップ塔で、放射性物質の濃度を減衰する処理が行われます。

処理を終えた排ガスは、排ガス送風機で排気筒に送られます。

排気筒では、排気が安全であることを確認しながら放出しています。

なお、今回の事象により、排気筒の放射線を監視する装置の指示値に影響はありませんでした。



触媒は特定の物質の化学反応を促進または抑制する物質で、自身は化学反応の前後で変化しないものをいいます。